

2. 資料・企画詳細・アンケート結果

2022年度「学びの杜・学術コース」リーフレット

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター主催

2022年度 学びの杜・学術コース

—学問の世界を知り、創造的な学びの力をきたえる—

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心とする研究者たちが、各学問領域における物の見方・考え方やこれまでの研究成果をわかりやすく解説する、本格的な学術講座です。大学レベルの高度な「学び」を体験することで、知の探究のたのしさと厳しさにふれるとともに、自分自身の興味や関心について深く考え、進学や将来のキャリアデザインにつなげてください。みなさんの参加をお待ちしています。



<注意事項>

- ・ 参加費は無料です。
- ・ 申し込みができるのは名古屋大学教育学部附属高等学校およびWWLの関係校の生徒のみです。
- ・ 対面の講義とオンラインの講義があります。
 - 対面の講義は、新型コロナウイルス感染症対策をとって実施しますが、緊急事態宣言などの状況によってはオンラインに切り替えることがあります。
 - 対面講義の会場（すべて名古屋大学東山キャンパス内）は申し込み確定時にメールでお知らせします。
 - オンラインの講義はZoomを使って実施します。参加するときは、講義の最初から最後まで、必ずカメラをオンにし、マイクを使える状態にしてください。
- ・ 条件を満たした参加者には証明書が発行されます。
 - 事前・事後アンケート（オンライン実施）の提出と、受講記録の記入は、すべての参加者の義務です。
 - 10講義以上に出席した場合は名古屋大学大学院教育発達科学研究科長による修了証を授与し、9講義以下の出席の場合は高大接続研究センターによる受講証明書を発行します。
 - 申込者数が定員を超過した講義は抽選になります。その際、10講義以上の参加を目指す生徒が優先される場合があります。
- ・ センターからの連絡（ZoomのミーティングID・パスコードの通知や緊急のお知らせ）はメールで行います。定期的に受信メールを確認してください。

<申し込み方法>

- ・ 申し込みは高大接続研究センターのウェブサイトです。締切は7月11日(月)21:00です。
- ・ 申し込みが完了すると、申し込んだ内容を記載したメールが自動的に送信されます。抽選結果は後日改めてメールでお伝えします。7月15日(金)までに抽選結果の連絡がない場合は、迷惑メールボックスをご確認の上、お問い合わせください。

<問い合わせ先>

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター（担当者：高橋まりな）

メール：chet@educa.nagoya-u.ac.jp

「学びの杜」業務専用電話：***-****-****（2022年8月31日まで有効）

人文学講座 名古屋大学大学院人文学研究科の教員による講義です

申込コード ジ01	8月4日(木) 10:00-12:00	オンライン 定員 80名	発音からみた日本語のバリエーション 宇都木昭 (言語学・音声学)
みなさんは、自分とは違う地域の人や、同じ地域でも異なる世代の人に対して、発音が自分となんとなく違うと感じたことはないでしょうか？この講義では、この「なんとなく違う」発音を中心にして、言語学や音声学と呼ばれる学問の一端を紹介します。			
申込コード ジ02	8月4日(木) 14:00-16:00	オンライン 定員 80名	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』と『ファウスト』 山口庸子 (ドイツ文学)
ゲーテの有名な小説『若きウェルテルの悩み』と戯曲『ファウスト』を読み解きながら、ドイツ語圏の文学・文化研究で何ができるかを考えます。また、絵画・音楽・映画・人形劇などの受容にも触れ、文学作品が持つ豊かな水脈について紹介します。			
申込コード ジ03	8月8日(月) 14:00-16:00	オンライン 定員 80名	『星の王子さま』の秘密 ー外国文学を原語で読む楽しみ 加藤藤恵 (フランス文学)
飛行士としても活躍したフランスの作家サン＝テグジュペリの『星の王子さま』は、読み返すごとに我々にいろいろなことを教えてくれる、いわば聖書のような深みをもった小説です。フランス語の音の響き、文体の工夫、翻訳には表れない微妙なニュアンス、作者の他の作品との関連性など、この作品の魅力に迫ります。2022年度春学期の基礎セミナーでこの作品をとりあげたので、そのときの名大生（文系と理系）のユニークな考察も適宜ご紹介できたらと思っています。			
申込コード ジ04	8月11日(木) 10:00-12:00	オンライン 定員 80名	昔のあなたと今のあなたはなぜ同一人物なのか ー人の同一性について考えるー 鈴木真 (哲学)
あなたが幼稚園児だったときと今のあなたを比べてみてください。見た目も体格も考えていることも、昔と今とは非常に異なっているはずですが、あなたを構成する物質は代謝によってすべて入れ替わっているのです。同じ物質からできているわけでもありません。これほどの変化にもかかわらず、昔も今もあなたが同一人物であるのはなぜでしょうか。この人の同一性の問題について、思考実験を交えながら検討していきます。			

教育発達科学講座 名古屋大学大学院教育発達科学研究科の教員による講義です

申込コード キ01	7月20日(水) 14:00-16:00	対面 定員 40名	心理的なものを測る 一性格・学力は正しく測れるか？ー 石井秀宗 (計量心理学)
性格や学力は、物差しや秤を使って量を測定することはできません。しかし私達は、「共感性が高い」とか「英語力が上昇した」などと言って、日常的にそれらの量を測っています。私達はどのようにやってそれを行っているのでしょうか。また、どの程度正確なのでしょう？ 本講では、これらについて実習も交えながら考えます。			
申込コード キ02	7月23日(土) 14:00-16:00	オンライン 定員 80名	多文化共生社会をデザインする 伊藤彰浩 (教育社会学)・服部美奈 (教育人類学)
グローバル化の進展に伴い、私たちの身近でも異文化に接する機会が増えて久しくなりました。一方、海外に目を転じてみると、移民問題など、多文化社会における様々な葛藤に関するニュースもよく耳にするようになりました。日本では、政府の外国人労働者受け入れ拡大政策により、今後さらなる社会の多文化化の進行が予想されます。こうした新たな局面を迎える中、多文化共生の実現のために、教育分野ではどのようなことがなされるのか、考えてみたいと思います。			
申込コード キ03	8月3日(水) 10:00-12:00	対面 定員 40名	子どもの権利と尊厳を探究しよう 石井拓児 (教育行政学)
人は生まれながらにして尊厳と権利を持っています。生まれたばかりの子どもにも当然尊厳と権利がありますが、国連で「子どもの権利条約」が採択されたのは1989年であり、まだまだ誕生したばかりの新しい権利です。条約の理念を学びつつ、これから私たちが「子どもの権利と尊厳」をどのようにして探究していけばよいのかをいっしょに考えます。			
申込コード キ04	8月3日(水) 14:00-16:00	対面 定員 40名	子どもたちにとっての「幸せ」とは何か ー心理学の視点からー 野村あすか (学校心理学)
現代を生きる子どもたちが何を考え、何を感じているのか、これらについて明らかにするために、心理学では、質問紙法、面接法や観察法などさまざまな手法を用います。本講座では、質問紙を通じてみてきた日本の子どもたちの「幸せ（幸福感）」について、海外の子どもたちの回答とも比較しながら考えてみたいと思います。			
申込コード キ05	8月20日(土) 14:00-16:00	オンライン 定員 80名	論理的に考え書くとはい？ ー<論理的>の文化的基盤ー 渡邊雅子 (カリキュラム学)
論理的に考え書くことの大切さが教育のみならずビジネスや国際的なコミュニケーションにおいて盛んに議論されています。しかし、そもそも<論理的>に考え書くとはいどのようなことなのでしょう。今や国際標準の書き方となったアメリカのエッセイと、フランスの小論文の比較を通して考えます。			

理学講座 名古屋大学大学院理学研究科の教員による講義です

申込コード リ01	8月5日(金) 10:00-12:00	オンライン 定員 80名	がん転移・アレルギー・動脈硬化を司る血管の機能 荒木聡彦 (生命理学・細胞内ダイナミクス)
血管は、体中に張り巡らされたチューブ状の構造物ですが、普通の細胞はそこを抜け出たり、入ったりすることは出来ません。しかし、白血球のような細胞はそこを出入りすることができますし、悪性がん細胞はその機能を模倣して血管を出入りして転移します。どのようにしたら、血管のドアが開くのかの新しい研究をご紹介します。それはがん転移・アレルギーその他、動脈硬化や糖尿病性網膜症のような成人病にも関わりますし、ヘビ毒による出血にも関わります。またそのような機能は、エボラ出血熱のような将来の未知の出血ウィルスから人類を守るカギになるかもしれませんので、研究の進展が期待されています。			

経済統計学講座 名古屋大学アジア共創教育研究機構 / 経済学研究科の教員による講義です

申込コード ケ01	8月26日(金) 10:00-12:00	対面 定員 50名	統計分析で嘘をつかないために。データの偏りと見せかけの相関 根本二郎 (経済統計学・理論経済学)
自然科学と同じように、経済学のような社会科学でも統計データを使って数量的な研究が行われます。しかし、十分に管理された実験データとは異なり、統計データにはさまざまな歪みや偏りが存在します。そのことを理解していないと正しい結論を導くことができません。たとえばなにか問題を解決しようとして、その問題の原因をどうしたら突き止められるのか。二つの変数の間に高い相関があったとしても、そこに因果関係(原因と結果の関係)があるとは限りません。そこでどうするか、考えてみましょう。			

有機化学講座 名古屋大学大学院工学研究科の教員による講義です

申込コード ユ01	7月22日(金) 10:00-12:00	対面および オンライン	大学の化学は楽しい! 分子の世界: 知る、見る、触る、作る 石原一彰 (有機化学)
ダイヤモンドは炭素のみからなる非常に硬い鉱物として知られていますが、厳密にはその認識は間違っており、実際には炭素以外の元素も含まれていますし、割ったり磨いたりできなければ宝石のような形状や輝きは生じません。そのなぞを解くために実際に分子模型を使ってダイヤモンドを組み立ててみましょう。身の回りに存在する様々な物質は小さな分子の集まりであり、各々の分子にも形があります。分子の形やそれを構成する元素の種類によって、匂い、味、硬さなどの物性が異なります。そうした違いを分子レベルで学ぶことができれば、今までよりも、毎日がより豊かで楽しいものになるでしょう。分子模型以外にも簡単な化学実験をデモンストレーションできればと計画しています。希望者を対象に、講義後は実験室見学も予定していますので、高校の化学に興味ある人もない人も、是非、参加してください。			

名古屋大学博物館講座 名古屋大学博物館の教員による講義です。会場は名古屋大学博物館内の講義室です。

申込コード ハ01	7月22日(金) 14:00-16:00	対面 定員 30名	二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ 大路樹生 (古生物学・古生態学)
二枚貝を詳しく観察することによって、その構造がその生態と捕食者からの防御と深く関係していることを理解し、「中生代の海洋変革」との関係性を学びます。			

申込コード ハ02	7月27日(水) 10:00-12:00	対面 定員 30名	骨の形から復元する絶滅動物の姿 藤原慎一 (機能形態学)
恐竜はどんな姿勢で歩いていたのでしょうか? 現生の動物の骨や筋肉の特徴から、絶滅動物の姿勢を復元する方法について考えます。			

申込コード ハ03	7月28日(木) 10:00-12:00	対面 定員 30名	植物から学ぶ生物の多様性 西田佐知子 (植物生態学・分類学)
植物は地球上に約28万種いると言われていています。なぜこんなに多様なのでしょうか? 実際の植物を観察しながら、生物の多様性について考えます。			

申込コード ハ04	7月29日(金) 10:00-12:00	対面 定員 30名	博物館で実践! サイエンスコミュニケーション 梅村綾子 (結晶学・博物館教育)
サイエンスコミュニケーションとは、科学の面白さを伝えるのみならず、科学技術が関与する社会課題を解決するため、市民とともに考え、意識を高めることを目指した活動のことです。授業では、博物館におけるサイエンスコミュニケーションを事例をもとに紹介します。また実際に、サイエンスコミュニケーションを生かした展示鑑賞法について、自身のアイデアも取り入れながら実践していきましょう。			

申込コード ハ05	7月29日(金) 14:00-16:00	対面 定員 30名	超大陸 Gondwana の謎を追って 20000km - 南極調査の現場から - 束田和弘 (地質学・テクトニクス)
地質学者はなぜ南極を目指したのか? 普段あまり耳にすることのない、テクトニクス研究の最前線について紹介します。			

地域医療教育学講座 名古屋大学大学院医学系研究科 地域医療教育学講座の教員による講義です

申込コード イ01	8月24日(水) 14:00-16:00	オンライン 定員 80名	地域医療とその教育を学ぶ 宮崎景 (総合診療医学・家庭医療学・医学教育学)・末松三奈 (糖尿病・医学教育学)・高橋徳幸 (総合診療医学・家庭医療学・医学教育学)
なぜ、地域医療が求められているかをご存知ですか？日本は、世界に先駆けて少子超高齢社会を迎えており、日本の動向に世界が注目しています。少子高齢化の最先端である地域医療の現場では、様々な医療専門職が協力し、日々新しい試みがされています。今回は私たちの取り組みをミニレクチャーやビデオ、そしてクイズで紹介しながら、皆さんと一緒に地域医療の現状やその教育を、考えたいと思います。			

高大接続研究センター特別講座 当センターの関係教員による講義です

申込コード コ01	7月21日(木) 14:00-16:00	対面 定員 40名	高大接続とは何か？ - 高校生のための高大接続入門 - 大谷尚 (教育情報学)
戦後最大の教育改革と言われた「高大接続改革」によって、「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」になりました。しかし、それ以外に予定していたいくつもの改革は実施されませんでした。「高」から「大」に進むみなさんにとって、「高大接続」とは何であり、どうあるべきなのでしょうか？ 外国の大学入試のあり方なども紹介しながら、このことを一緒に考えてみたいと思います。			

申込コード コ02	8月29日(月) 10:00-12:00	対面 定員 40名	学校で学ぶことの意義とは ~今、ここにいる、私たちの学びをめざして~ 柴田好章 (教育方法学)
近年の学校の授業をとりまく社会的な変化により、学校の役割が変化しています。また、私たちは COVID-19 によって、学校が長期にわたって休校になるという事態も経験しました。この講座では、学校で学ぶことの意義とは何かを考察します。教育学の研究として取り組んでいる授業分析の目的・方法・成果・課題を紹介します。			

2022年度「学びの杜・学術コース」カレンダー

講義日	曜日	時間	講師	講義タイトル	開催方法	定員	コード
7月20日	(水)	14:00-16:00	石井秀宗	心理的なものを測る 一性格・学力は正しく測れるか？ -	対面	40	キ01
7月21日	(木)	14:00-16:00	大谷尚	高大接続とは何か？ - 高校生のための高大接続入門 -	対面	40	コ01
7月22日	(金)	10:00-12:00	石原一彰	大学の化学は楽しい！ 分子の世界：知る、見る、触る、作る	対面・オンライン	なし	ユ01
7月22日	(金)	14:00-16:00	大路樹生	二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ	対面	30	ハ01
7月23日	(土)	14:00-16:00	伊藤彰浩 服部美奈	多文化共生社会をデザインする	オンライン	80	キ02
7月27日	(水)	10:00-12:00	藤原慎一	骨の形から復元する絶滅動物の姿	対面	30	ハ02
7月28日	(木)	10:00-12:00	西田佐知子	植物から学ぶ生物の多様性	対面	30	ハ03
7月29日	(金)	10:00-12:00	梅村綾子	博物館で実践！サイエンスコミュニケーション	対面	30	ハ04
7月29日	(金)	14:00-16:00	東田和弘	超大陸ゴンドワナの謎を追って 20000km - 南極調査の現場から -	対面	30	ハ05
8月3日	(水)	10:00-12:00	石井拓児	子どもの権利と尊厳を探究しよう	対面	40	キ03
8月3日	(水)	14:00-16:00	野村あすか	子どもたちにとっての「幸せ」とは何か - 心理学の視点から -	対面	40	キ04
8月4日	(木)	10:00-12:00	宇都木昭	発音からみた日本語のバリエーション	オンライン	80	ジ01
8月4日	(木)	14:00-16:00	山口庸子	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』と『ファウスト』	オンライン	80	ジ02
8月5日	(金)	10:00-12:00	荒木聡彦	がん転移・アレルギー・動脈硬化を司る血管の機能	オンライン	80	リ01
8月8日	(月)	14:00-16:00	加藤靖恵	『星の王子さま』の秘密 - 外国文学を原語で読む楽しみ	オンライン	80	ジ03
8月11日	(木)	10:00-12:00	鈴木真	昔のあなたと今のあなたはなぜ同一人物なのか - 一人の同一性について考える -	オンライン	80	ジ04
8月20日	(土)	14:00-16:00	渡邊雅子	論理的に考え書くととは？ - <論理的>の文化的基盤-	オンライン	80	キ05
8月24日	(水)	14:00-16:00	宮崎景 末松三奈 高橋徳幸	地域医療とその教育を学ぶ	オンライン	80	イ01
8月26日	(金)	10:00-12:00	根本二郎	統計分析で嘘をつかないために。データの偏りと見せかけの相関	対面	50	ケ01
8月29日	(月)	10:00-12:00	柴田好章	学校で学ぶことの意義とは ~今、ここにいる、私たちの学びをめざして~	対面	40	コ02

「学びの杜・学術コース」企画詳細・アンケート結果

「学びの杜・学術コース」は、本学の教員を中心とする研究者が、各専門領域における大学レベルの学びの機会を高校生に提供する無料公開講座である。当センターおよび前身の中等教育研究センターが毎年夏休み期間に開催し、2005年の開始から18年目を迎えた。参加生徒が知の探究のたのしさ厳しさにふれることで自己の興味関心を内省し、将来のキャリアデザインにつなげてゆくことを目的としている。

2019年度以前は愛知県内外の高校・高等専門学校から参加者を募集していたが、2020年度は感染症対策のため参加を附属学校の生徒に限定し、大部分をオンラインで実施した。2021年度はWWL連携校5校の生徒に受講者を広げ、講義内容によってオンラインまたは対面を選んで実施した。2022年度は申し込み可能な生徒の範囲をさらに拡大し、6つの学校から102名（延べ受講者数388名）が参加した。前年度と同じ完全なオンライン・対面のほか、オンラインと対面のハイブリッド形式で実施した講義もあった。参加希望者は自身の興味関心に合わせてひとつまたは複数の講義を選び、Webサイトの専用ページから申し込んだ。10コマ以上の講義に出席した16名には修了証が発行された。

〈生徒の受講科目選択〉

「学びの杜」では以前から、大学生の履修のように、どの講義を受講するかを参加生徒が主体的に選択する。年度によっては、関連する科目を束ねてコースを編成しコース単位での受講を推奨したり、一定数以上の講義を受講するよう指定したりすることで、修了時にある程度まとまった知識が獲得できるような方向づけをしている。今年度はコースや受講コマ数の制約がなかったため、どの講義を選択するかは完全に参加者に委ねられた。その結果、学習計画の段階から生徒の自主性を重んじることができた一方、体系的な知識の獲得という観点からは十分な支援ができなかった可能性がある。

〈他校生徒との交流〉

感染症対策の都合で、対面授業では積極的な交流が困難な面もあったが、オンラインの講義では生徒の発言を伴う活動がしやすかった。特にzoomのブレイクアウトルーム機能を用いた少人数のグループワークでは、講師がグループ分けを行うことで、普段接点のない生徒の間で積極的な意見交換ができた。現在は所属学校で制限して申し込みを受け付けているが、今後は状況を見ながら、多様な背景を持つ生徒が共に学べる環境を整備していきたい。

受講後のアンケートには以下のような記載があった。

- 対面授業ではあまり話すきっかけがなく、他校の生徒と学んだ、とは思わなかったが、リモートの講義ではそう感じた。細かくグループ分けされ、一対一で話すことで、普段関わらない人との交流ができた。色々な人の考え方を知るとはとても楽しいと思ったので、積極的に会話したい。
- 私が参加した講座は席が自由だったので自然と高校ごとになってしまって、話す機会があり

ませんでした。

- ほとんどが名大附生だったことやグループワークの時間がそこまで多くなかったことから、これできっかけというのは難しいのではないかと思った。
- なかなか交わることでできない他の高校の生徒と一緒に学ぶことができ、何度も講義受けるときに会う子はお互いに相手の名前や顔も覚え、仲良くなることができました。
- 学校にかかわらず、興味関心の近い人と集まって、議論などしてみたい。
- いつも身の回りにいる人の意見だけではなくいろんな考え方を感ずることが出来た。
- グループディスカッションなどを通して学校が違うことによる考え方の違いや環境の違いによって湧き上がるアイデアなど利点が沢山あって、偏った考えだけでは物事を進める上でうまくいかなくなってしまうと思うので沢山の幅広い意見、考えを持っていきたいと思いました。
- 他校の生徒かはわからなかったが、面識のない相手とグループワークで盛り上がる事ができた。

〈受講による変化・進路選択への影響〉

生徒によっては120分の講義を1回受けただけであり、受講の成果として大きな変化を期待するのは無理があるが、受講者にアンケートの形で振り返りを促したところ、以下のような回答が得られた。

- 今まで自分が興味のある分野で進もうとだけ決めていたが、少し面白そうな講義を受けたことで、まずはすべての学部を知ることから始めるべきだと思った。
- 今まで国際系の学部で大学では進学し、世界中で働きたいと思っていた。しかし、学びの杜を受講し、そこで出会った人たちのお話を聞いたことで、理系の研究、医療系、文学、などの新しい分野にも興味を持って、私の視野が広がった。将来やりたいことが増えて、逆に良い意味で困っている。
- 研究者の方の話聞いて、何かを追究したり、新しいものを生み出すことはとても楽しそうだと思った。
- これからの進路を決める上での悩みを解決することはできなかったが、自分の興味のある分野について詳しく知れたのが良かったと思う。自分が好きなことや、知りたいことを探求するきっかけをたくさん作りたいという考えが、より強くなった。
- 様々なジャンルの学問を学ぶことで、自分のやりたいことが社会の中でどのような役割を果たすのか、またどのようにしてそれが成り立っているのかを考えるいいきっかけになりました。
- 文系理系で迷っていたが理系にする。
- どのように研究が行われているかを直接知ることができたので、大学・大学院に更に興味を持つことができた。大学での研究に携わってみたいと思った。
- 自分はずっと、国文学を学びたい、学ぶならそれしかないと思っていた、それ以外の学問に興味を向けようとしたことさえなかった。しかし、今回フランス文学や哲学の講義を受けてみたあと、自分が本当に学びたいのは、国文学でしか学べないことなのだろうか、国文学を

読むことが多いから自然と国文学を考えていたが、自分の学びたいことは文学自体ではなく別のものにあるのかもしれないと、自分を見つめなおすことができた。

- プログラミングについて今まで興味があったため受講してみたが、今回受講したことでもっと知りたくなったし、学部についても工学部はあまり考えていなかったけれど工学部に進学するのも良いと思ったり、将来を考える範囲が広がりました。
- 学びの杜を受けて夢が見えて来ると思っていました、むしろ自分が想定していたより世界が広い事を実感して、将来の迷いは増えました。けれど、今までの恐怖のような迷いではなく、どれも楽しそうという期待ゆえの迷いだと思えるようになり、不安な感覚がなくなって良かったと感じています。
- テストのために勉強するのではなく、学ぶという行為自体を楽しめるように学びを幸せだと感じられるような勉強がしたいと思うようになりました。
- 自分の興味に当てはまらない講座も受けた。最初はぜんぜん関心を持ってなかったけれど、講座を受けてみると、自分の興味のある分野に繋がりを持っていたり、面白さを感じる事ができた。
- 将来だけでなく、いろいろな事に通じる考え方を学ぶことができた。
- 人間の脳や心に興味があって、心理学系か医学系で迷っていました。しかし今回心理学の講義を受けてみて、心理学は自分のやりたいこととは違うと気づくことができました。

昨年度と同様、大学教員の講義を受けることで、特定の学問分野に対してだけでなく研究者という職業に対しても興味を持ったという記述が複数あった。受講が自分自身の進路選択に与えた影響については、自分の選択肢をより幅広く捉えられるようになったとするコメントが多かった。また、「何を勉強する（したい）か」だけでなく、「何のために勉強するか」「どう学ぶか」にも思考を広げている感想があった。学術のたのしさを知るといふ当事業の機能が、その場限りのもので終わらず長期的に探究心の支えのひとつになるように、働きかけを続けたい。